

## 第1回 三条大橋デザイン検討会議 摘録

日 時：令和3年6月23日（水） 午後2時～午後4時

場 所：職員会館かもがわ 2階 大会議室

出席者：委員14名，報道機関：6社（8名），傍聴者：1名

- 1 開会の辞，注意事項，
- 2 開会の挨拶（京都市建設局土木管理部道路防災担当部長）
- 3 委員，事務局の紹介
- 4 三条大橋の歴史に関する講演（京都大学院工学研究科教授）
- 5 デザイン検討会議，デザインコンセプト，施設のデザインポイントに関する説明
- 6 意見交換

（議長）本日の目的は，デザインコンセプトを皆様からのご意見を基に作り上げていくということに集中したいと思います。皆様の意見はKJ法という方法によりを集約する方法により，コンセプトとしてまとめていきます。皆様から三条大橋に関すること，三条大橋との関わり思いあるいは期待等を忌憚なく述べて頂ければと思います。そして，次回にはまとまった案を提示していただいて，さらに皆様の御意見をいただいて基本的なデザインコンセプトとし，それに基づいてそれぞれの施設，パーツ，車両用防護柵，歩道舗装，照明等の設計を具体的に検討して行きたいと思います。

（委員）地元で生まれ育って，子どもの頃から，通勤も三条京阪-大阪間で毎日通っていた。今一番心配は洪水。最近の水の量は雷雨ですぐ190mm近くいく。自主防災会の会長もしている。深夜の雨が多く避難指示出しにくい。水害に強い橋にして欲しいのが一番です。夜はまちのシンボルとして照明をうまく使って欲しい。歩道が狭く車椅子が行き違えないため歩道を広くして欲しい。車を通す必要があるか検討して欲しい。できれば車は通行止めでもいいのではとも思う。地元民は川端通り・河原町通りへ逃げている。緊急車両はどうか検討は必要であるが，観光の車も周辺道路へ逃げさせて，歩行者専用のイメージでいいのではないかと。

（委員）今回の会議は，「三条大橋デザイン会議」とついているが，橋の照明・欄干などフィジカルなデザインだけでなく，改修のプロセスや終わった後の関わり方，参加のデザインが大事ととらえた。何十年後かに改修の歴史が，今回の取り組みが紹介される物になればいい。五条大橋・七条大橋は市民が定期的に自主清掃をするなど周辺住民と橋との関わりがある。三条大橋も今回の取り組みをきっかけに周辺住民と橋との関わり，学校や団体の横の関わりに育っていけばいい。2007年に歩いて暮らせるまちづくりで歩行者天国とし社会実験をしたが，まちで活動している者にとってインパクトがあった。先程の話にも歩行者天国がいいと出たように，その時のことを教訓にして検討してもいいのでは。地域景観の他者からもわかりやすいランドマークタワーである。老朽化を見るに見かねた市民が私財100万円を京都市へ寄付したことがはじまり。今回の取組を後押しした。多くの市民が非常に興味を持っており，この会だけのクローズではなく発信して欲しい。

(委員) 三条大橋は歴史が生きている。歴史のストーリーをサステナブルに風景として引き継ぎ、残していくのが大事。公儀で管理してきた橋で品格が高い。公道の原点として品格を保つ必要もある。石のイメージを持たずのか木のイメージを持たずのか、歴史の中で何を選択するのが大事である。

橋を通る人に全体の風景が重要。東山・北山・まち並み・川の畔から山の手の風景、風致という考え方文化と自然が融合して人が活躍できる舞台。橋と周辺も含めて考えて空間を作っていく風致の空間を大事にしていくことをコンセプトに入れていくべき。信号機は管轄が違うと思うが、茶色っぽい色に全部塗ればよい。橋脚のコンクリートの部分汚い。洗浄するか上から塗装するか、汚れを目立たなくさせるのが大事。

(委員) 橋を京都らしいデザインにして写真映えする橋になればよい。橋から北山を見るといい景色なので、これからの世代の人が三条大橋に集まって、憩いの場になればよい。

(委員) デザイン云々コンセプトもあるが、木製高欄が朽ち果てているためなんとかしてもらいたい。デザイン云々より今の三条大橋のイメージで、古いものを更新して欲しい。照明については以前に3~4mの照明が橋の両側に設置されたが、歴史のある三条大橋に近代的なものは不適切と撤去した経緯がある。その後、歩車道の防止柵に所々照明が内蔵されたが、薄明かりで役に立っていない。照明については色々考えていただきたいが、街路灯より間接照明がよい。

(委員) 趣味が散歩で様々な橋を下からも上からも見ているがどの橋も個性的。三条大橋は欄干が木造で、裏から見るとコンクリートになっている部分もあり、すごく歴史を感じる。三条大橋はそのままでいいと思っている。金属的なものを入れると歴史的なことがぼやけてしまう。三条、四条間に住んでおり、四条大橋は新しいイメージがある。三条大橋はほっとした気分になるので、そのままの形で木造の歴史を感じられるようなままで残して欲しい。また、人や車が渡る機能的なことも考えないといけないと思う。

(委員) 二条大橋は東のほうに向かって東山も見え開けており多少モダンでも許せたが、三条大橋の周辺の変わりようによくない景観になったように思う。洪水の取り組みも大切だが、今は取り組みをやっても氾濫を防げないので橋桁を丈夫にして、上の木製高欄もどこの木材を使ってもいいので見栄えがするように、周辺がどう変わろうとも三条大橋は良いと地元もよそからの人にも思ってもらえる美しい橋にしてもらえたらと思う。

(委員) 生まれが烏丸三条なので、高校生のときに毎日通っていたので一番身近な橋。三条大橋は、京都らしさを現す橋であり、今の形が京都を想像させる形になっている風に思う。今の見る橋の印象をいかに継続して、今の課題に対応するかここで議論出来たらいい。先程の話にあった橋を渡る人からの見え方もあるが、河川敷を歩く人が多いため、下から見上げる機会も多い橋である。いろんな視点もふまえた上でデザインという検討をしていけたらいい。

(委員) 交通の便とか色々考えるべきことがいっぱいあると思うが、デザインで頭に描いていたのは和のテイストのままで木目調、擬宝珠は残されたまま、和の装束に合う京都の橋のイメージをつくっていただきたい。三条大橋は市バスが渋滞しているイメージで、橋が改修されて美しくなっても見栄えがしなさそうな感じがする。そこをゆったり人だけが歩けば橋の美しさも出てくると思う。橋のたもと橋の下が昔は暗やみを通るのが怖かった。今はどこの橋の下もきれいになっているのが嬉しい。その維持もできるような橋にさせていただきたい。

(委員) 4~5年前からの三条大橋はひどい状態。デザイン検討と言いましても今までのそのままにさせていただきたい。変わったことをしていただかなくていいと思っている。また、三条通の歩道が広くなり非常に歩きやすくなった。デザインを変えるのではなくて今まで通りの三条大橋、すなわち今まで通りの木製の伝統で続けて欲しい。デザインも木製を必ず守って欲しい。コンクリートは必要ない。

(委員) 他の橋の改修の工事の照明が橋に一直線にかかっている、京都のイメージとしては提灯のような点のぼやとしたライトのイメージだが、遠くから見たときに線上の一直線にかかるライトアップがすごくきれいだった。構造物単体ではなく、空間・借景、空間全体として橋があるのが鴨川の典型であると思う。また、面的なデザインのアクセント、改修のプロセス等を専門家だけではなくオープンな場所で、意見の交換が必要と考える。

(委員) 自主防災会の会長もしており、大雨の際には、鴨川の土手も歩けないくらい濁流が多い。河川の管理は京都府であり、管轄は違うが、ただ古くなったものを新しくするのは良くない。そういう防災の観点も踏まえて改修を考えてほしい。

(委員) 京都市の景観政策でライトアップのとき三条大橋がシルエットになって非常にきれいだった。特に擬宝珠がきれいだった。下から見ると擬宝珠が空に映えて非常にきれい。擬宝珠のデザインは残していただきたい。擬宝珠の歴史をたどれば秀吉が三条大橋をつくる1年前上京区の報恩寺の文苑に同じ擬宝珠の入った小さな橋があり、それは秀吉がつくった橋。観光のためにも歴史を維持するためにも必要で、全体のデザインに擬宝珠は貢献していると思うので今の世に残していただきたい。ライトアップは今の橋に当てただけであった。イタリアのテヴェレ川は、築堤横に光がはいるようになっていて、今度新しくなって三条大橋もライトアップしその周辺の鴨川の築堤にも明かりが入ると川の水が映えて非常にいいだろうと思う。

また、皆さんの意見の中で、歩行者専用や歩道の拡幅という話が出たが、他に大きな影響が出ることであるため、ここで決めるのではなく、別の場で議論をするほうがいいと思っている。今かなりバス会社は犠牲になっている。今三条通を東行くのは京都バスだけ、他のバスはみな無理をしまわっている、そういうことも知っていただいて、この場所でデザインと合わせて話すのはどうかと思います。別の場で交通の問題として議論して欲しい。

(議長) 私がデザインコンセプトと思っていること、キーワードを少し話します。「人々を京都に暖かく迎える京都の玄関としての橋」「豊かな歴史と文化にあふれた鴨川の橋の中の最も京都らしい橋」「京都の環境になじんで和服の女性達にインスタ映えのするような橋」「三条大橋周辺のまちの発展の起爆剤となるような橋」  
このようなことをコンセプトとして考えてはどうかと思っております。配付資料の13枚目に「三条小橋商店街町定」いうのがあって、三条小橋商店街に住んでおられる方の思いが集約されてこういう心、こういう気持ちを大事にして設計する、この気持ちを実現できることが大事かと思っております。

7 次回第2回の案内 (8月下旬から9月上旬を予定)、閉会の辞